

【2026年新春TOP インタビュー コンサル①】

オリエンタルコンサルタンツ 野崎秀則社長 広域構想とAIで未来拓く】



のざき
ひでのり
野崎秀則社長
オリエンタル
コンサルタンツ

「市場動向について
国土強靭化や防災省関係の予算は
継続していく見込みで、基本的に
は底堅い。重要なテーマとしては、
国土強靭化の二つの柱である防災
・減災と維持管理・保全が引き続
き中心になる。民間市場は、都市
開発や維持管理などの分野でどう
需要が高まっていくのか可能性を
探っている」

広域構想とAIで未来拓く

生といったテーマの複合化も重要
だ。これらを複合的に展開してい
る三重県内では、脱炭素などの社
会的要請に対し、地元自治体や他
企業と共に再生可能エネルギー
事業の会社を立ち上げ、運営にも
コミットしている

「推進力になるのは
保全事業部の事業部長や支社の河
川砂防・港湾部の部長を女性社員
が務めるなど、女性技術者も着実
に力をつけている。多様な人材が
自然と育つ土壤が整い始めてき
た」

「狙いどろは
「政策立案に近い部分から実施
・運営までを一貫で担う垂直統合
とそのためのマネジメントをより
広く展開していく。具体的には、
奈良県田原本町などで進めている
ような、複数自治体を束ねた広域
インフラマネジメントだ」

「単発のインフラ整備や保全に
とどまらない事業を展開するに
は、防災、モビリティ、地方創
生像と、最適な選択肢を提示で
きる能力こそが武器になる」

「その力を磨くため、性別で差
らす影響は
「2026年は、AIと3次元
モデルによる変革が加速する年に
なる。ポイントは二つある。一つ
は社内の業務プロセスの変革、も
う一つは顧客に提供する事業モデ
ル・技術モデルの変革だ」

「例えば北九州市では、豪雨災
害時の対応に関する質問に生成AI
が的確な答えを出すシステムを開
発し、テスト運用を始めた。今
後はAIがインフラの専門家レベ
ルの回答を提供する時代が来る。
インフラの専門知識とAI技術の
融合も今後の競争力の源泉になっ
てくる」



経営者・柳井正氏の「経営者になる
ためのノート」を繰り返し読み込んで
いる。経営者に必要な資質が説かれて
おり、幹部を育てていく上でも重宝し
ている。